

第2回富士吉田市立小市立小中学校再編計画検討委員会

の開催結果

- 1 日 時 令和7年11月28日（金）16時00分～17時30分
- 2 場 所 富士吉田市役所本庁舎3階 大会議室
- 3 出席委員 13名（委員名簿順）
廣田健委員長、渡邊利彦委員、勝俣米治委員、前田厚子委員、
勝俣大紀委員、渡邊淳子委員、宮下公雄委員、浅沼鎮雄委員、
遠山賀津男委員、村松悟委員、深澤なつき委員、
渡邊久美子委員、遠山賢子委員、加々美せつ子委員
- 4 出席職員 白須企画部次長、堀内総務部次長、柏木教育委員会次長、
和光企画課課長、青山企画課課長補佐
林教育研修所所長、勝俣教育研修所課長補佐、
安保学校教育課課長、清水学校教育課課長補佐、
丸山学校教育課課長補佐、羽田学校教育課主幹、
羽田学校教育課主幹
- 5 内 容 (1) 開会
(2) 委員長挨拶
(3) 【議事】
①第1回検討委員会会議録の承認について
②富士吉田市立小中学校の再編案について
(4) 閉会

【本日の資料】

第2回富士吉田市立再編計画検討委員会 次第

第2回富士吉田市立再編計画検討委員会 席次表

第1回富士吉田市立再編計画検討委員会 会議録

資料1：学校施設の再編検討（案）

資料2：学校施設の再編検討に向けた基礎資料

会議録

○事務局

定刻となりましたので、ただ今から、「第2回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会」を始めさせていただきます。

議事に入るまでの間、私、教育委員会 学校教育課長の安保が進行を務めさせていただきます。

本日の会議につきましては、お手元の会議次第により進めさせていただきます。

本日は、本市が委員会運営等の支援を委託しております、株式会社ファインコラボレート研究所も同席しておりますのでご承知おきください。

また、品田笑子委員、関口亨委員、伊藤秀一委員、庄司学委員、親田悠平委員、中村亮太委員におかれましては、本日ご欠席となる旨、事前に連絡を頂戴しております。

なお、本委員会の会議につきましては、委員数13名のご出席をいただいております、委員会設置要綱第5条第4項に規定されております定足数に達しておりますことをご報告させていただきます。ここで、皆様の机前にご用意いたしました本日の資料の確認をさせていただきます。

【本日の資料】

第2回富士吉田市立再編計画検討委員会 次第

第2回富士吉田市立再編計画検討委員会 席次表

第1回富士吉田市立再編計画検討委員会 会議録

資料1：学校施設の再編検討（案）

資料2：学校施設の再編検討に向けた基礎資料

不備や不足など、ございませんでしょうか。

はじめに、廣田委員長からごあいさついただきます。よろしくお願いいたします。

○委員長

みなさまと話し合いながらよりよいものをつくっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、廣田委員長に議事の進行をお願いしたいと存じます。

廣田委員長よろしくお願いいたします。

○委員長

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに次第3 議事の(1)「第1回会議録の承認について」です。

第1回検討委員会の会議録につきましては、本日委員の皆さんのお席に用意されたものであるため、目を通していただく時間が必要であるかと思えます。

これから3分程度、会議録の確認のためのお時間を設けますので、ご確認をお願いいたします。

○委員

<異議なし>

○委員長

ご異議なしと認めます。

よって第1回会議録は承認されました。

次に議事(2)「富士吉田市立小中学校の再編案について」事務局から説明をお願いします。

○事務局

学校再編の事務局案の説明ですが、再編計画の根拠となります基礎資料からご説明します。本日の会議は事務局案を絞り込むのではなく、学校再編を検討するための考え方や根拠資料など整理しましたので、資料の内容や、再編検討の考え方などのご助言やご意見をいただければと思います。

○渡邊(利)委員

これまで提出している基本方針など複数の資料に、最も遠い児童生徒の通学距離や時間の調査結果が記載されていますが、その通学時間が異なっている箇所があります。通学時間はどのように算出されたのですか。

○事務局

通学時間は、個人差はあると思いますが、一般的な目安として小学校3年生平均の徒歩で移動する時間を基準として、通学距離から割り出しています。

最初に提出した資料に、過去の調査結果の記載が残っていたため、その後、提出した資料の時間は上記の基準で修正しました。修正したことを報告しなかったため、ご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げます。

○渡邊(利)委員

通学するのに大変な小学1年生の通学時間を考慮していない点や、集団での登校時と下校時では時間も違ってきます。このような視点も取り入れていく必要があります。

ます。また、提出資料に訂正がある場合は適宜報告して、資料の信ぴょう性を担保していただきたい。

○事務局

承知しました。今後、細心の注意を払って取り組んでいきます。

では、本日の資料の説明を行います。

資料2の学校施設の再編検討に向けた基礎資料をご覧ください。

1. 児童生徒数・学級数の将来推計

児童生徒数は、2025（R7）年度現在、3,106人で、ピーク時の1980（S55）年度のピークである9,150人から、66%（6,044人）減少しています。将来推計は、現在から10年後の2035（R17）年には、児童生徒数が18%減少しますが、20年後の2045（R27）年は現在から21%減に留まり、一時的に減少は緩やかになる見込みです。

中学校区の推移をみると、下吉田中学校区は1980年頃から急激な減少傾向を示しています。吉田中学校区は1980年頃まで増加してから減少傾向に転じていますが、1990年代後半から横ばいとなり、2005年頃に一時的な増加を示した後、再び減少傾向に転じています。明見中学校区は1976年以降、おおむね減少傾向を示しており、富士見台中学校区は1982年から現在まで緩やかに減少を続けています。

学校別にみると、下吉田第一小が2007（H17）年に6学級になり、それ以降、児童数が減少しており、2020（R元）年から小規模特認校になっています。

富士見台中は、2013（H25）年に3学級になり、それ以降、生徒数も減少傾向にあります。

富士小も2017（H27）年に6学級になり、児童数の減少も継続しています。

2025年では、クラス替えのできない小規模校は、小学校2校、中学校1校で、将来推計でも、今後、継続すると思われます。

また、明見中が6学級に、下吉田中も9学級になり、中学校の小規模校が拡大すると思われます。

1校当たり学級数、1学級当たり児童・生徒数は、ピーク時の1982年度では、小学校7校で、160学級、1校当たり23学級、児童数5,870人、1学級当たり37人、中学校4校で74学級、1校当たり19学級、生徒数3,072人、1学級当たり42人と、十分な規模がありました。

2025年度の現在においては、小学校が1校当たり13学級、1学級当たり18人、中学校が1校当たり8学級、1学級当たり28人まで減少しています。

20年後の将来推計での児童生徒数から、1学校当たり18学級、1学級当たり小学校25人、中学校35人とした場合の学校数の試算は、学級数18学級数をなするためには、小学校4.9校、中学校1.7校になり、1学級当たりの人数を25人、35人にするためには、小学校5.4校、中学校2.0校となります。

数値上からの試算になりますが、適正規模を実現するための学校数は、小学校が5～6校、中学校2校になります。

2. 学校の配置状況

当市では、4つの中学校区に学校が密集して配置されており、市役所を中心とした3.2km圏内に全校が収まります。学校間の距離も近く、学区の隣接する小学校同士で、最も近い距離は0.6km、最も遠い距離は1.9km、学区の隣接する中学校同士で、最も近い距離は1.7km、最も遠い距離は2.2kmとなります。

また、4つの中学校が小学校に近接して配置されているため、小中連携の深化や小中一貫教育の導入等の検討も行う必要があります。

学校配置の密集度合いを県内の他の4つの自治体と比較すると、当市は1校当たりの可住地面積が1.64km²/校で、大月市5.35km²/校、都留市2.30km²/校と比較しても狭く、学校の密集度合いが高くなっています。

3. 複合学区の状況

当市では、学校間の距離が近いこともあり、通常の学区の間に教育的な立場から配慮して、どちらかの学校を選択できる複合学区が配置されています。複合学区は全部で19学区あります。ピーク時において複合学区は機能していたと思われませんが、現在は、複合学区に居住している児童生徒数が10人未満の機能していない学区があることから、見直しを検討する必要があります。

4. 遠距離通学の状況

2023年度（R5年）に在籍している児童生徒の調査から、各校で最も遠くから通学している児童生徒の居住地を地図に落として、各学校まで距離と、平均的な通学時間を示しています。どの小中学校も、適正配置に関する国の通学距離の基準「小学校4キロ、中学校6キロ」を満たしています。

5. 学校施設の状況

2020年（R2年）に策定した学校施設長寿命化計画を記載しています。

築年別整備状況では、築30年以上の学校校舎が69%を占めており、更新の時期を迎えています。プール、体育館は整備が進行しており、比較的新しい施設です。

将来の更新コストは、従来型の試算で、40年間平均が11.2億円/年で、過去の施設投資関連経費の3.1倍になります。長寿命化型の試算では、40年間平均が9.0億円/年で、過去の施設投資関連経費の2.0倍になります。

6. 学校規模による事象と課題・効果等の整理

小学校と中学校の学校規模による事象と課題・効果等を大規模校、標準規模校、小規模校に分けて整理しています。

7. 適正規模・適正配置基本方針の4つの柱

適正規模・適正配置の実現は、学校規模や配置を見直すことにより、実現していく4つの柱を記載しています。

8. 小中一貫校について

制度概要、義務教育学校と小中一貫小学校・中学校の各制度の特色、一般的に示されているメリット・デメリットを整理しています。

続きまして、資料1 学校施設の再編検討（案）をご説明します。

学校再編検討の考え方は、

1. 望ましい学校規模の実現
2. 望ましい通学距離の実現
3. 4地域間の整合性：各地域に小学校を配置 としています。

学校再編による改善策は

- ①小学校の小規模校解消
- ②中学校の生徒数減少対応
- ③再編後も地域に小学校を1校以上配置し、地域との連携を継続

この考え方をもとに、10年後までに、

- ・下吉田地区の小学校を再編
- ・小学校を4地域に1校以上配置
- ・富士見台中を他校と再編 を行い、小学校5校、中学校3校とします。

次の20年後までに、中学校を2校に再編します。中学校の配置案は複数検討しています。

案①は、明見中を他校と再編して、吉田中、下吉田中の2校とします。

案②は、3地域の中学校を再編し、下吉田東小跡地に新設校を配置し、吉田中と新設校の2校とします。また、明見小を明見中に移設します。

資料1の学校再編案の各学校の学級数ですが、地図に記載のある学級数と児童生徒数シミュレーションの表の学級数に一部の学校が一致していません。お詫びします。修正箇所をご提示しますのでご対応をお願いします。修正後の資料を再度ご提出しますのでよろしくお願いいたします。

○委員長

ただいまの事務局からの説明につきまして、ご意見等ありますでしょうか。

○勝俣（大）委員

資料2の6ページにある学校配置の密集度合いの近隣自治体との比較のデータがありますが、20年後はどのような数値になりますか。

○事務局

近隣自治体の学校数は2024年のデータから作成しています。20年後の学校数は当市が将来推計から、比較する他自治体は人口推計等からの推定になります。資料を次回の会議までに用意します。

○勝俣（大）委員

資料2の9ページにある長寿命化計画にある改修コストですが、改修等の単価の更新は行う予定ですか。

○事務局

今回の資料は令和2年策定の長寿命化改修計画なので、学校施設の最新状況を把握して、改修計画を更新します。次回の検討委員会に再編案ごとの改修コストのシミュレーションを提出します。工事費などの単価は直近の工事事例や、他自治体の実績を参照して見直しを行い、今後の物価上昇等も考慮する予定です。

○勝俣（米）議員

資料1の再編案は、10年後、20年後の学校配置が提示されていますが、その間の期間は何も行わないのですか。

○事務局

資料には、10年後、20年後に再編した姿を地図に記載していますが、2031年に富士見台中の他校との再編から始めて、順次行っていきます。提示している事務局案を目安にして、その内容や再編時期、順番などはこの検討委員会で協議していきたいと思います。

○勝俣（米）議員

上暮地地区の学校は、富士小を継続する案になっていますが、富士見台中と小中一貫校にすることは検討しないのですか。

○事務局

富士見台中は、現状の生徒数が少なく、他校と再編し継続したとしても、適正規模を実現することが難しいため、一旦再編案から外しています。ただし、今後の議論の中に出てきた場合は再度検討していきます。

○遠山（賀）委員

適正配置の方針には中学校 6 km以内、小学校 4 km以内とありますが、小学生は本当に 4 km先から通学できるのでしょうか

○事務局

適正配置における通学距離は、再編検討の条件として、現在の学習環境の維持を前提にした基準として設定しました。今後の再編検討において学校配置が具体的に変わっていきますので、通学距離や通学時間も具体的に検証していきます。また、再編後に通学時間が遠くなることに対しては、個別の支援も検討します。

○遠山（賀）委員

統合中の設置を 10 年後に早めることも考えられると思います。

また、現在の複合学区が残ると、富士小が残ったとしても中間にいる児童が下吉田第二小や明見小を選んでしまうのではないかと懸念があります。

○事務局

再編と合わせて複合学区を見直すことを考えています。富士小の児童数が確保できるような学区の見直しを行う予定です。

○勝俣（米）議員

富士小は 20 年後、どのような姿になりますか。

○事務局

富士小の学区が広がっていくと思います。再編に合わせて学区の見直しを行うこととなりますが、学区の設定は慎重に行っていきます。

○前田委員

適正規模を実現する議論は単なる人数合わせではないと思います。適正な規模を実現することにより、どのように学校がよくなるのか、どのような学校を目指すのかを議論すべきです。資料 2 の 11 ページには、適正規模・適正配置基本方針の 4 つの柱はとして目指すべき学校像が示されていますが、この学校像をどのように実現していくのでしょうか。

○事務局

子どもにとって最適な教育環境を実現していくことが重要なので、今回の資料は数値上の根拠データ中心になっているため、議論が偏っているようですが、次回の検討委員会では、基本方針の 4 つの柱やコストからの比較など、様々な観点から議論していきます。

○委員長

前回の検討委員会から望ましい学校規模や学校配置を決めてきましたが、今回の提案内容は、それを実現していくための配置案になります。そのやり方や新しい学校のありかた、時期や順番といった内容をこの委員会で議論していきたいと思っております。それ以外にご意見や確認したいことはありますか。

○遠山（賀）委員

学校再編において学校名の変更を考えていますか。

○委員長

新しい学校の学校名はこの委員会で議論していきたいと思えます。

○遠山（賀）委員

学校名は地域性がからんでいると思えます。地域名をなくし、第一小や第二小とすることも考えられます。

○委員長

小さい学校が大きな学校に吸収されるのではなく、二つの学校が一つになり新しい学校をつくっていくという視点が必要だと思えます。そのために全く違う学校名にすることも考えられます。

○渡邊（利）委員

住んでいる所が富士小に近いのに下吉田東小に行く児童が多いのは、下吉田中に行きたい児童が多いためだと思えます。下吉田中は運動部が充実しているため、やりたい競技がある児童は、最初から富士小へ行かず下吉田東小を選ぶことになり、富士小に通っていても下吉田中に進学するような児童は多いと思えます。

学区で調整しても区域外通学を希望する児童を止めることはできないと思えます。単なる数合わせで学区の線引きを行うのではなく、学校の魅力をいかに高めるかが重要だと思えます。富士小を残すとしても、いかに学校の魅力付けをするかが必要になってきます。

今後、地域からの意見を取り込んでいく予定ですか。

学校も地域の魅力をいかに出していくことが必要だと思えます。

今回の検討委員会において、学校再編を早急に取り組む必要があるということですが、「早急」とは具体的にどのように考えていますか。

また、再編検討委員会は前回提示されているスケジュールでは来年の年度末までなので、残り2回でどこまで決めていくのでしょうか。各地域との調整など考えると、時間的に厳しいと思えます。今後の検討委員会のスケジュールは延長を含め、どのように考えていますか。

○事務局

「早急」とは、急速に進行する少子化に対して方向性を「早急に」検討すべきだと考えています。

検討委員会のスケジュールにある年度末には、地域住民の意見等を反映させる時間等がとれないと思われまますので、期間の延長を検討します。

○渡邊（利）委員

10年後、20年後の方向性を検討するには、地域からの意見も重要なので、4回の委員会で決めていくのは難しいと思います。年度をまたいで継続して審議することが重要だと思います。クラブ活動の問題も地域移行の対応など、議論が十分でない課題も残っています。

○事務局

1回目で提示したスケジュールについて再度提案させていただきます。

○村松委員

子どもたちが学校で生活できるのは地域の協力があるからです。10年後、20年後の学校づくりにおいては地域の方と十分に議論して進めていきたいと思っています。

学校側としては、魅力ある学校づくり、学校に誇りをもてるような学校をつくっていききたいと思っています。

○委員長

地域の方の意見や協議を十分に行った上で進めていくことが必要です。再編案も総論では合意しても、そのやり方や内容に関しては色々な意見があると思いますので、時間を取りながら進めていきます。前回提案したスケジュール案は、保留として、次回の委員会で再度スケジュールの見直し案を提示します。

他に何かご質問はありますか。

○宮下委員

5年後、10年後の将来人口は人口減少の予測ですが、例えば人口が増加するなどそれ以外の結果を示しているような予測はありますか。

○委員長

そのような情報がありましたら、ご提示ください。

○勝俣（大）委員

子どもたちの意見を聞くことは考えていますか。

○委員長

検討期間が延長になりましたので、検討していきます。

他に何かご質問はありますか。

よろしいでしょうか。

○委員長

それでは、議事（２）についてはこれで終了といたします。

以上で、予定していた議事は終了しました。

進行を事務局にお返しいたします。

○事務局

廣田委員長、ありがとうございました。

ここで事務局から事務連絡がございます。

次回会議の日程につきましては、スケジュールを組み直す中で、なるべく早く調整したいと考えております。

日程が決まり次第、委員様宛の通知を発送させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上で、第２回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会を終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。